

クローバー通信

No. 1

後援会長挨拶 会長 平井昭吉

皆様、こんにちは。熊坂伸子後援会の会長を務める平井でございます。

熊坂氏はこれまでに様々な事を学校で学んだり教えたりしてきました。東北大学大学院経済学研究科博士課程後期在学中に研究の一環で訪れた滝沢村（現滝沢市）の助役（現在で言えば副村長）に請われて就任し、数々の行財政改革を実践しながら研究を続け博士号（経営学）を取得しました。

また東日本大震災を挟んで2期8年間普代村の教育長を務め、岩手県で初めての小中一貫教育を実現しました。その実践力と行動力には並々ならぬものがあります。これまでの豊富な経験を活かし震災からの復興を加速しながら、女性目線から宮古市に新風を吹き込んでくれるものと確信をしております。何よりも宮古生まれの宮古育ちとして郷土愛を人一倍持っております。

市民の声を大切にする新しい宮古市を創るため是非熊坂伸子さんをご支援頂きたく宜しくお願い申し上げます。

熊坂伸子インタビュー

—お生まれはどちらですか

熊坂 生まれも育ちも宮古です。築地で生まれて中学生までそこで育ちました。小学校も中学校も愛宕です。少子化で統合されて小学校も中学校も無くなって寂しいですが、私の子どもの頃はたくさん子どもがいて、

1クラス55人位で、一番後ろの子どもは背中が壁に付いていました。近所の友達と誘い合って登校しました。愛宕小学校から家の前までは一本道で、道の両側にたくさんのお店がありました。朝ごはんの前によくお使いに行きました。中学校の途中で西町に引っ越したのですが、学校は最後まで愛宕に行きました。常安寺の坂を歩いて1時間以上かけて通いました。今でも足が丈夫なのはそのおかげだと思っています。

—ご両親は鉾ヶ崎出身とお聞きしました

熊坂 父は日立浜にあった宮古造船の次男でした。子どもの頃よく遊びに行きましたが、当時はたくさんの船大工さんが働いていて、木造船がたくさん並んでいました。新しい船の進水式は賑やかでワクワクしました。夏にはいとこ達と一緒に近くの竜神崎で泳いだり潜ったりして遊びました。

母は、鉾ヶ崎上町の山智廻船問屋の長女でしたから、しょっちゅう遊びに行きました。港は活気があり、サンマ漁の時期にはたくさんのサンマ船に紙テープを投げて見送りました。おとなの人たちと一緒にタコ踏みをしたこともあります。

—海に縁が深いですね

熊坂 私が小さい頃、両親は浄土ヶ浜で観光船の仕事をしていました。ウミネコの餌付けも父のアイデアだと聞いています。ですから、両親が忙しい間、私は浄土ヶ浜の売店の人たちに面倒を見てもらい、大変お世話になりました。私は歩くより先に泳ぎを覚えたと言ったことがあります。（裏面へ続きます）

そんなこともあって、今でも海が大好き、泳ぐことが大好きです。大人になってからも、悩んだ時、落ち込んだ時に海を眺めに行ったことが何度もあります。海を見ていると悩みが小さく思えるんですよ。

—海には恐ろしい面もあります

熊坂 そうですね。私は小学校1年生の時に築地の家でチリ地震津波を経験しました。愛宕小学校に避難しました。家は床上浸水だったと記憶しています。高校1年生の時には、十勝沖地震があり、教室の窓からみんなまで逃げて八幡様に上りました。

そして、東日本大震災の時、私は普代村役場の教育長室にいました。すぐに災害対策本部を立ち上げ、副本部長として村民の安否確認や情報収集を行うと同時に、子ども園・小・中学校の園児・児童・生徒、教職員等の安全確保、図書館等教育関係施設の安全確認等を行いました。役場に泊り込んで24時間体制で臨みましたが、その間、宮古の家族の安否確認ができなかったことが一番苦しいことでした。電話も、道路も、三陸鉄道もすべて不通だったからです。あの時、里帰り出産で生まれたばかりで宮古の自宅にいた孫娘は今春小学校に入学しました。

海は厳しくて怖い面もありますが、沢山の恵みも与えてくれます。小学生のころは渡船に乗って藤原スカに泳ぎに行くのが、夏の一番の楽しみでした。海の町に生きる私たちは、謙虚に海に向き合い、海を大切に守っていかなければなりません。

—宮古の発展も海とは切り離せません

熊坂 観光業や水産業などは、美しく豊かな宮古の海の恵みです。時代とともに変わる要請を的確に捉えて、常に挑戦し、発信していくことができれば、まだまだ発展できると思います。これは他のすべての産業振興にも言えることではないでしょうか。

—東日本大震災や台風10号の被害は甚大でした

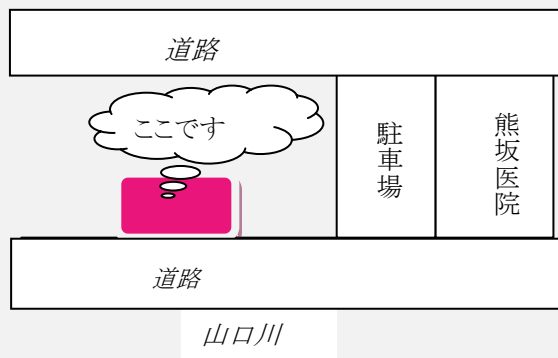
熊坂 まさにダブルパンチです。けれども、宮古の人々は過去の多くの災害から力強く復興して発展してきました。今度もきっと大丈夫です。大震災前の状態に戻すのではなく、それ以上に良い状態を目指して、以前からあった課題も解決しながら復興していく、「復興を越え

た復興のまちづくり」を目指したいです。しかも迅速に。そのためには市民間の合意形成がとても重要で、住民間の合意があればスピーディな復興が可能だと思います。そのためには地域の意見をまとめるリーダーが地域に必要です。

これまでの経験を生かして市民の声を市政に届けます



後援会事務所開設のご案内



春光うらかな季節を迎え、皆様にはますますご健勝のことと存じます。後援会の拡大と充実のために、ご協力をお願いいたします。なお、上記に後援会事務所を開設いたしましたので、何卒お気軽にお立ち寄りください。

事務局一同